

令和5年度学校経営方針

1 校訓と生徒信条

建学の精神として、脈々と受け継がれてきた校訓「平和を誇れ 真理を啓け 文化を創れ」は、本校の教育の歴史を貫く最高理念として位置づけられ、創立以来、具体的な教育活動の実践により連綿と受け継がれてきた。

また、三つの生徒信条「私は知識を磨くために自主的に学習する生徒になります」「私は花の美しさも人情の美しさもわかる生徒になります」「私はたくましいからだと旺盛な精神力をもつ生徒になります」も時を超えて変わらぬ人としての在り方を示す不易の理念が含まれている。

磐田第一中学校は、今後も校訓、生徒信条を大切に受け継ぐとともに、さらなる高みを目指し日々の教育実践に取り組んで行く。

2 地域、保護者の願い

本校の校区には、市役所やJR磐田駅があり、古くから磐田市の行政や商業・経済の中心地区である。三つの県立が高校や三つの小中学校四つの幼保こども園がある文教地区であることから、保護者や地域の方は、校区「中泉」に誇りをもち、教育熱心で、学校教育に対し大きな期待をもっている。

本校生徒は、まじめでやさしさをもち、規範意識が高く、授業や行事をはじめ、教育活動に前向きに落ち着いて取り組んでいる。また、一中生としての自覚と一中のよき伝統を継承しようとする姿が多く見られる。

一方、不登校や別室登校、特別に支援を要する生徒や外国籍の生徒など一人一人の特性に応じた指導の重要性が増してきている。

生徒		保護者	地域
強み	課題		
<ul style="list-style-type: none">・まじめで自分の役割を果たそうと一生懸命取り組むことができる・他者を思いやるやさしさがある・規範意識が高く、学習行事、部活動に熱心に取り組むことができる・一中生としての自覚がある	<ul style="list-style-type: none">・困難にめげず立ち向かう気力の涵養・自分の思いや考えを表現する力の育成・自分で考え、正しく判断し、行動する態度や能力の育成・欠席率の改善・自分を知ると共に多様な個性を受け入れる態度の涵養	<ul style="list-style-type: none">・精神的な安定を支える良好な家庭環境・協力的な保護者、PTA・進路に対する期待・養育に課題を抱える家庭	<ul style="list-style-type: none">・文教地区に立地（学区内に三校の公立高校）・一中、中泉地区への誇り・一中生としての誇りをもちたいという願い

3 新学習指導要領

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。また、経済活動等のグローバル化や少子高齢化、急激な情報通信技術の進歩等の技術革新等により、社会が加速度的に変化し、予測の難しい時代を迎えている。

令和3年度から完全実施された学習指導要領では、このような社会の中で求められる資質・能力の育成を教育課程や教科等の授業まで浸透させ、具体化していくことをこれまで以上に強く求めている。

「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、学校教育を通じて育むべき資質・能力を教育課程全体の中でより明確に示し、それを社会と共有し、連携・協働しながらそれらを子供たちが確実に身に付けるこ

とができるよう、日々の教育活動を展開していかなければならない。

4 学校教育目標（学校経営目標）・めざす生徒像

(1) 学校教育目標

「誇り」高く 「心」しなやかに 「^{こころざし}夢」はぐくむ生徒の育成

(2) 目指す生徒像

ア 「誇り」高く

自ら考え、正しく判断して行動する生徒（自律）

イ 「心」しなやかに

多様な個性を受容し、協働して課題を解決する生徒（共生）

ウ 「夢」はぐくむ

夢の実現に向けて、粘り強く取り組む生徒（自立）

5 今年度の重点

(1) 主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善（Nスタイル）

ア ICT 機器を活用した対話的学習と課題解決型学習の充実

イ 家庭学習の個別最適化

(2) 一人一人の特性に応じたインクルーシブ教育の充実と組織的な対応・支援の展開

ア 生徒につく、生徒に寄り添う生徒指導

イ レジリエンスの育成

ウ 生徒が主体的に取り組む特別活動

(3) コミュニティスクールを基盤とした「なかいずみ学府小中一貫教育」の推進

ア キャリア発達を促す体験的活動

イ 総合的な学習の時間における探究的学習の充実

6 学校経営のスローガンと具体的実践

<スローガン>

想像力を働かせ、見えないものを見、声なき声を聴き、三手先を読む

(1) 基本方針

ア 人間尊重の精神を基盤とした、一人一人の生徒に寄り添う生徒指導

イ 多様な個性の受容と協働、真に生徒を大切にする学級づくり

ウ 規範と感動、誇りを生む生徒主体の自治的活動の充実（学級目標づくり等）

エ 個に応じた教育と、インクルーシブ教育システムの構築

オ レジリエンス育成と不登校、外国籍生徒、特別な支援を要する生徒等への組織的対応

カ 新学習指導要領具現に向けた授業改善、指導と評価の一体化、ICT機器活用

キ 社会に開かれた教育課程と情報発信、地域とともにある学校づくり

ク 生活安全、交通安全、災害安全、心の安全

ケ 9年間を見通したカリキュラムの検討

コ 学校運営協議会を核とした、学校、家庭、地域との連携、協働と地域リソースの活用

(2) 教師の基本姿勢

ア 生徒理解に基づいた生徒指導

・「生徒につく」「生徒に寄り添う」「清掃は師弟同行」

・生徒の育つ力を信じ、じっくりと待って育てる

(傾聴・自己選択・自己決定・共感的人間関係)

イ 自分らしさを発揮できる安全安心な学校・学級風土(学校風土向上作戦)

ウ 後ろ姿で導く教師(規範・感化・信・敬・慕・研鑽)

(3) 小中一貫教育とコミュニティスクール

ア 小中一貫教育

・人と人とのつながりの深化(児童生徒交流 小中教職員交流 地域との交流)

・学校風土向上作戦(Nスタイル あいさつ 深呼吸)

・レジリエンス育成

イ 学校運営協議会・学府運営協議会

・保護者・地域との協働、地域リソースの活用

7 勤務環境改善

(1) 勤務実態把握

ア グループウェアを利用した、確実な在校時間の把握

(2) 校務の整理・効率化、保護者・地域との協働

ア 30代、40代のミドルリーダー層が学校運営に積極的に参画できる校内組織の構築

・グループ制導入による、人的リソースの効率的運用

イ 学校の校務運営体制の改善とスクールカウンセラー等専門スタッフの活用

・コドモンの活用による欠席連絡や各種連絡の効率化

・通知・依頼文等、定型書式のデータベース化

・三者面談時等の特別日課 ・部活動全体計画(平日週3日の活動)

・職員会議のペーパーレス化 ・SSS(スクールサポートスタッフ)の配置

・学校行事へのPTAボランティア協力依頼(体育大会・学校公開日受付)

・各種アンケートの実施・集計でのICT活用

・ホームページの刷新による情報発信の強化

ウ 学校運営協議会、CSCによる地域との協働体制の構築

エ 学校評価と連動した、業務改善の点検・評価

オ 教職員間のコミュニケーションの活性化と、風通しのよい職場環境づくり

カ 校務支援ソフト等による情報化の推進と校務の効率化

・年次休暇簿の電子化 ・年末調整書類の電子化

・出張の口頭復命 ・文書受付簿の廃止

(3) 教職員の意識改革

ア 在校時間計算表の活用による勤務の振り返り

イ 業務改善による生産性の向上

(4) 業務改善目標

・超過在校時間R4年度比5%削減